

●第36回 緑区社会福祉大会

平成30年2月21日（水）、第36回緑区社会福祉大会が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、穏やかな雰囲気の中、日頃から地域で福祉・保健などの活動で活躍されている方々を中心に、399名の皆様にご参加いただきました。

【第1部】

第1部の式典では、緑区において永年にわたり、社会福祉活動に携わってこられた34名と1団体の功績に感謝し、地域福祉の一層の充実を図ることを目的に式典（表彰）が行われました。



＜▲式典（表彰）の様子＞

＜▼緑区社会福祉大会チラシ＞

第36回 緑区社会福祉大会

【日時】平成**30**年**2**月**21**日（水）

午後**1時30分**から**4時00分**【会場】緑公会堂

☆開場：午後1時00分

【第一部】式典（午後1時30分～2時20分）
社会福祉功労者・金品預託者の表彰

みどりのわ
ささえ愛
プラン

区内の社会福祉活動に貢献した個人・団体を表彰します。

【第二部】緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」
（午後2時30分～4時00分）

＜第3期計画重点テーマ③ 「障がい児・障がい者に関する取組」＞
「ほっとするみどり～伝えたいわたしたちのこと～」

■街頭アンケート報告と日々の生活ビデオ紹介
■パネルディスカッション

【パネリスト】
市木 智子（緑区育成会会長）
荒木 優（みどり福祉ホーム所長）
山内 亜紀子（横浜市緑区『みんなの学校』上映実行委員会委員長）
栗原 千明（輪屋ビネル）
【コーディネーター】
村井 祐一（みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会 庶長 / 田園調布学園大学 人間福祉学部 教授）

※事前申込不要。参加費無料。手話通訳有。
※当日会場にて、「みどりのわ・ささえ愛プラン」における各地区の取組紹介のパネルの展示、障がい者地域職作業所・施設の製品の販売を行います。

【問合せ先】
緑区社会福祉協議会 電話：931-2478 FAX：934-4355
緑区福祉保健センター福祉保健課事業企画担当
電話：930-2304 FAX：930-2355



＜▲地区別計画推進のパネル展示の様子＞

会場2階ホワイエでは、11地区の地区別計画の推進状況について、パネルと通信の展示が行われ、来場者に各地区の取組が広く紹介されました。



＜▲施設の販売の様子＞

また、今年度も区内10か所の障がい者施設・作業所の製品販売が行われました。

【第2部】

休憩後、第2部がスタートしました。第3期地域福祉保健計画では、区域計画として6つの重点テーマを設けています。今年度はその中から“障がい児・障がい者に関する取組”にスポットをあて、「ほっとするみどり ～伝えたいわたしたちのこと～」と題して、日頃のかかわりを知るための街頭アンケート調査や日常生活を紹介するビデオの上映後パネルディスカッションが行われました。

コーディネーターには、みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会の座長であり、田園調布学園大学教授の村井祐一氏、パネリストには、地域で活動されている4名の方をお迎えしました。



<村井コーディネーター>

「日頃、「障がい」のある方とかかわる機会がありますか？」という街頭アンケートを実施したところ、約半数の人が障がいのある方と関わることはほとんどないと回答されています。しかし、身近にいるけれど、「よく知らないだけ」という人もたくさんいます。

今回、障がいのある方の日常の暮らしも知ってほしいと思い、会場の皆さんにもイメージが湧くように生活の様子をビデオにして、会場の皆さんに見ていただきました。



●緑区育成会会長 市木 智子 氏

当事者の親として、「緑区はあたたかなまち」。障がいがある人を身近に感じているのではないかなと思う。もっとふれあいの機会が増えるといいなぁと期待している。直接かわらなくても意識したり、想像してくださる方が増えることで、もっと身近な存在に感じてほしい。



●横浜市緑区『みんなの学校』上映実行委員会 委員長 山内 亜紀子 氏

子どものころから、障がいのある方と共に生活をする中で、多様性を受け入れる力が付きます。そのことを知りました。緑区でも映画「みんなの学校」のような学校ができるといいなぁと感じています。



●鴨居ピネル事業所 栗原 千明 氏

20代で病気を発症してから、デイケアや今通っている作業所に通うことで、症状が改善しています。



身近にいる家族に病気を理解してもらえるといい。病気を持っている人たちは、周囲をととても気にしています。当事者たちは敏感に反応してしまいます。お互いのことを知らないから、わからないからこそ、持ってしまうイメージだと感じています。



<▲会場の様子>

●みどり福祉ホーム 荒木 傑 氏

障がいと言っても様々であって、みたくて見てわかる人もいれば、見てわからない人もいます。緑区は地域があたたかいと仕事を通じて感じています。障がいがあってもなくても接し方は変えないことを心掛けています。障がいは、他人事ではない。



それぞれの立場や経験から感じていることを話してくださいました。